

2024年8月29日

中央大学アカデミック・サポートセンター ライティング・ラボ
2024年度前期活動報告書

抄録

今学期中のセッション数は、554件（前年同期441件）、稼働率は59.16%（前年同期57.09%）であった（I-3）。セッション数が増加した主な理由は、前年同期と比べ、法学部学部生と文学部学部生の利用増加である。

セッション形式の内訳は、学期中に実施した総セッション数のうち、対面は296件（前年同期286件）、オンラインは258件（前年同期155件）であった。

セッション数でみると、2018年度539件、2019年度564件と2年連続して前期セッション数が500件を超えたが、その後コロナ禍以降は連続して450件を下回っていた。これはコロナ禍に加え、法学部・法学研究科が茗荷谷キャンパスへ移転したこともあり、セッション数の減少に繋がっていたためと考えられる。今期は554件となり、セッション数はコロナ禍以前の状態に戻った。茗荷谷キャンパスへの広報活動に力を入れたことにより、茗荷谷キャンパスの教員と学生にライティング・ラボが周知されつつあるのがセッション数増加の要因の一つであろう。

このほか、今年度は春季休業期間に7日間半日のみ開室した。春季休業期間のセッション数は22件である。大学院進学のための研究計画書と志望動機書に関する支援が主であったが、春季休業中も一定のニーズがあることが明らかとなった。

チューター研修に関しては、昨年度夏季休業期間に実施した対面集合型研修同様、春季休業期間にも全体による対面集合型研修を実施した。日頃は顔を合わせることが少ない他チューターから、学生とのコミュニケーション方法などのセッションスキルや文章診断の際の留意点などを学ぶことができるという報告もチューターから聞かれ、ライティング・ラボ全体のセッション質向上に向けて貴重な機会となっている。

以 上

はじめに

2024 年度前期におけるライティング・ラボの活動状況について、以下の通り報告する。I では開室状況と利用実績、II ではセッション以外の活動、III では来期において特筆すべき所見を述べる。

I 開室状況と利用実績

I-1 開室期間と日数、チューター配置数

開室期間:2024 年 4 月 9 日から 2024 年 7 月 29 日までの月～金曜日

開室時間:14:10～17:40 ※月・木曜日のみ 10:50～17:40

開室日数:75 日(前年同期 75 日)

設置セッション数¹:950 コマ(前年同期 783 コマ)²

アカデミック・ライティング部門長:尹智鉉

スーパーバイザー(SV):中野玲子

アソシエイト・スーパーバイザー(ASV):林雅子

アシスタント・スーパーバイザー(ASV):松井雄志

シニアチューター(ST):4 名

チューター6名

I-2 受付方針(2024 年度前期)

受付優先順位および予約の可否は、文章の種類(対象文章かそれ以外か)に基づく。

1. 対象文章

授業で課題となったレポート、発表レジュメ、卒業論文、修士論文、博士論文、投稿論文、プレゼンテーション原稿(スライド、口頭用)、研究計画書、ボランティアセンター報告書、総合政策学部プロジェクト活動報告書

2. 空きがある場合につき、受け付ける文章

奨学金応募書類に含まれる志望動機書、留学志望書、公務員試験練習課題
日本語翻訳(授業の課題のみ)
そのほか、アカデミック・ライティングの観点でコメントできそうな文章

3. 受付不可とする文章

就職活動関係の文章(キャリアセンターへ案内)、メールや手紙の文章
英語の文章³、公務員試験以外の筆記試験対策のための相談

¹ 稼働可能なブース数すなわちチューターの配置数をコマとしてカウントした。SV/ASV に関しては、セッション空き時間はその他業務を行うため、設置数に含めない。

² 前年同期と比べ設置数が 167 件増加した理由は、シニアチューター 1 名の増加、および複数日勤務するチューターの増加である。また、繁忙期に稼働率が高い金曜日にチューターを 1 名、臨時配置したためである。さらに SV/ASV のセッションが 24 件増加したことも理由として挙げられる。

³ 英語論文を書く前段階の日本語による構想などに関する相談は受け付けている。

I-3 実施セッション数と稼働率

実施セッション数:554 件(前年同期 441 件)(うち対面 296 件、オンライン 258 件)

セッション稼働率:59.16%(前年同期 57.09%)⁴

図1に、2013年のライティング・ラボ開設時からのセッション稼働率推移を、表1に利用数他の推移を示す。

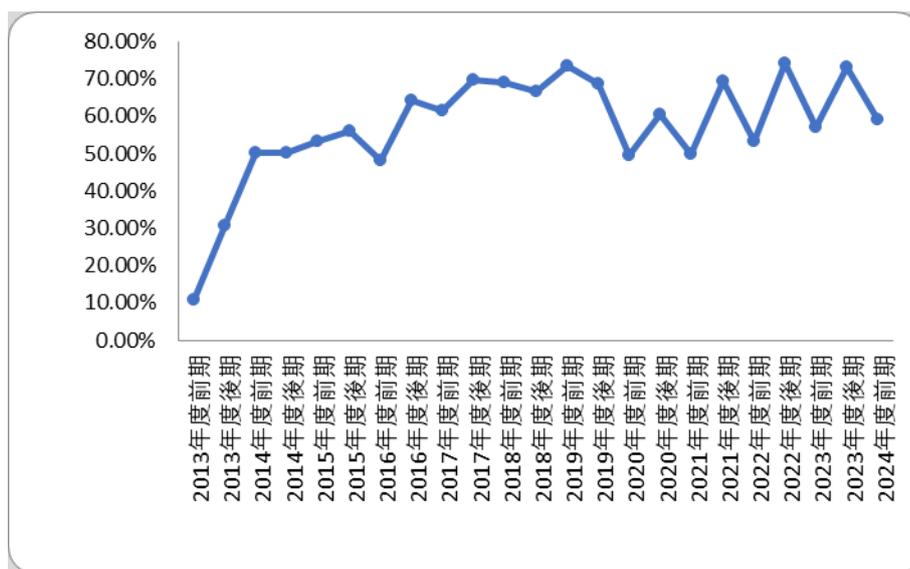


図1 ライティング・ラボ学期別稼働率の推移

表1 利用数、設置セッション数、セッション稼働率、利用数前年同期比の推移

年度・期	利用数	日数	設置セッション数	セッション稼働率	利用数前年同期比
2013年度前期	89	45	420	10.71%	—
2013年度後期	124	45	402	30.84%	—
2014年度前期	210	45	417	50.36%	39.33%
2014年度後期	220	45	437	50.34%	77.42%
2015年度前期	232	62	434	53.45%	10.48%
2015年度後期	338	60	603	56.05%	53.64%
2016年度前期	246	59	511	48.14%	6.03%
2016年度後期	390	60	606	64.36%	15.38%
2017年度前期	433	60	703	61.59%	37.57%
2017年度後期	555	61	795	69.81%	31.19%
2018年度前期	539	60	781	69.01%	24.48%

⁴ SV/ASV に関しては、セッション空き時間はその他業務を行うため、設置数に含めない。また、No Show(予約はしたものの来室せず)については、実施扱いで稼働率を算出した。実際のセッションは554回であるが、稼働率の計算に関しては、セッション数は562回としている。

2018年度後期	547	62	820	66.71%	-1.44%
2019年度前期	564	56	768	73.43%	4.65%
2019年度後期	565	56	821	68.82%	3.29%
2020年度前期	129	36	261	49.40%	-22.90%
2020年度後期	355	56	588	60.40%	-37.10%
2021年度前期	425	70	852	49.88%	329.50%
2021年度後期	635	72	916	69.32%	178.90%
2022年度前期	408	73	771	53.44%	-4%
2022年度後期	698	75	954	74.11%	9.90%
2023年度前期	441	75	783	57.09%	8.10%
2023年度後期	772	75	1067	73.10%	10.60%
2024年度前期	554	75	950	59.16%	25.62%

2024年度前期の特徴は学部4年生の利用数である。2023年度前期と比べ、学部4年生の利用数が54件増加している。

学生の利用内訳は次のとおりである。2024年度前期の学部1年の利用は142名（前年同期120名）、学部2年の利用は60名（前年同期48名）、学部3年の利用は61名（前年同期55名）、学部4年の利用は133名（前年同期79名）、学部5年以上の利用は39名（前年同期32名）、博士前期課程の利用は71名（前年同期76名）、博士後期課程の利用は41名（前年同期31名）であった。

24年度前期のセッションの稼働実態として、以下に、週毎の設置数・稼働数の推移（図2）、週毎の稼働率の推移（図3）週別・曜日別のセッション数と稼働率の表（表2、表3）を示す。これらの図表から、6月中旬以降に期末レポートなどでの利用が増えたことがわかる。

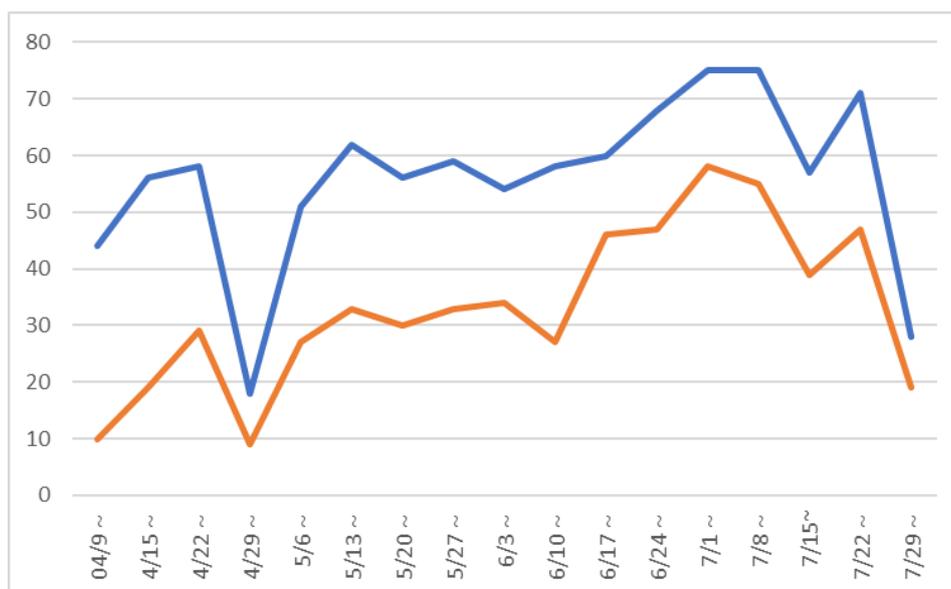


図2 2024年度前期週別セッション設置数・稼働数の推移

(青色:設置数、茶:稼働数)

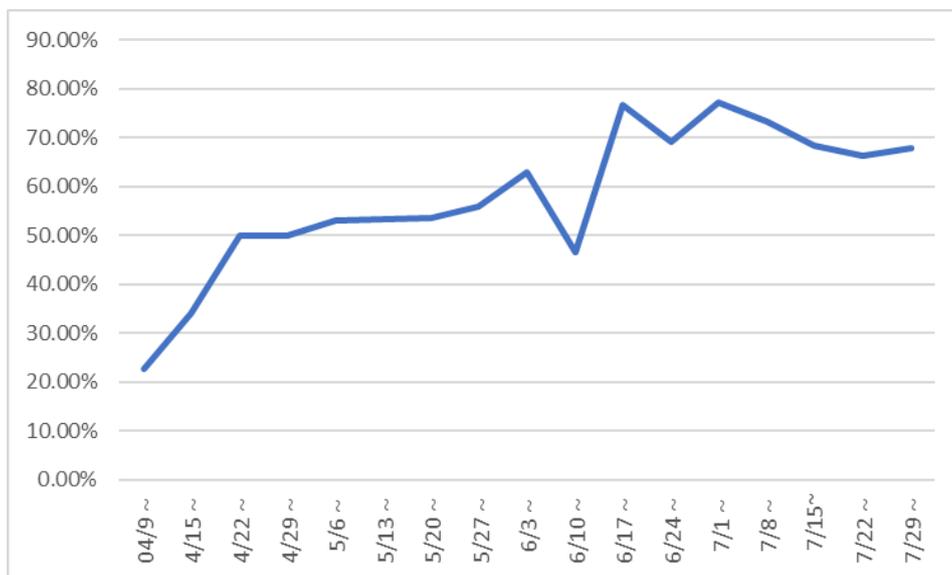


図3 2024年度前期週別セッション稼働率の推移

曜日毎の稼働率に大きな偏りは見られない⁵。なお、月曜日と木曜日の稼働数が多いのは設置数が多いからである。

表2 週別・曜日別セッション数・稼働率(4月第2週~6月第1週)

		04/9~	4/15~	4/22~	4/29~	5/6~	5/13~	5/20~	5/27~	6/3~
月	設置数		16	18	18	17	16	20	16	15
	稼働数		3	6	9	9	8	8	8	8
	稼働率		18.75%	33.33%	50.00%	52.94%	50.00%	40.00%	50.00%	53.33%
火	設置数	6	4	4		6	5	4	7	2
	稼働数	6	4	4		6	5	4	7	2
	稼働率	100.00%	100.00%	100.00%		100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
水	設置数	18	12	12		12	14	12	14	13
	稼働数	3	3	6		4	6	8	7	6
	稼働率	16.67%	25.00%	50.00%		33.33%	42.86%	66.67%	50.00%	46.15%
木	設置数	12	16	16		8	18	11	13	14
	稼働数	0	6	9		5	9	6	4	9
	稼働率	0.00%	37.50%	56.25%		62.50%	50.00%	54.55%	30.77%	64.29%
金	設置数	8	8	8		8	9	9	9	10
	稼働数	1	3	4		3	5	4	7	9
	稼働率	12.50%	37.50%	50.00%		37.50%	55.56%	44.44%	77.78%	90.00%
計	設置数	44	56	58	18	51	62	56	59	54
	稼働数	10	19	29	9	27	33	30	33	34
	稼働率	22.73%	33.93%	50.00%	50.00%	52.94%	53.23%	53.57%	55.93%	62.96%

⁵ 表2・3で曜日別に見ると、火曜の稼働率が高い。これは火曜日の担当がSVとASVのみだからである。臨時でチューターが代講した日以外は100%の稼働率となっている。

表 3 週別・曜日別セッション数・稼働率(6月第2週~7月第5週)

		6/10~	6/17~	6/24~	7/1~	7/8~	7/15~	7/22~	7/29~	前期全体
月	設置数	22	20	21	23	22		22	28	294
	稼働数	10	15	9	16	12		13	19	153
	稼働率	45.45%	75.00%	42.86%	69.57%	54.55%		59.09%	67.86%	52.04%
火	設置数	4	6	6	7	4	8	6		79
	稼働数	4	6	5	7	4	8	6		78
	稼働率	100.00%	100.00%	83.33%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%		98.73%
水	設置数	13	12	14	16	15	15	15		207
	稼働数	7	8	11	14	11	8	12		114
	稼働率	53.85%	66.67%	78.57%	87.50%	73.33%	53.33%	80.00%		55.07%
木	設置数	11	12	16	16	18	20	15		216
	稼働数	2	9	13	13	14	12	10		121
	稼働率	18.18%	75.00%	81.25%	81.25%	77.78%	60.00%	66.67%		56.02%
金	設置数	8	10	11	13	16	14	13		154
	稼働数	4	8	9	8	14	11	6		96
	稼働率	50.00%	80.00%	81.82%	61.54%	87.50%	78.57%	46.15%		62.34%
計	設置数	58	60	68	75	75	57	71	28	950
	稼働数	27	46	47	58	55	39	47	19	562
	稼働率	46.55%	76.67%	69.12%	77.33%	73.33%	68.42%	66.20%	67.86%	59.16%

【所見】

稼働率は、6月以降に高くなった。セッション前後の事務作業を鑑みると60%台での推移が望ましい。繁忙期でも火曜日を除き、稼働率が90%になることはほぼなかった。そのため、セッションの設置数は適切だったと言える。

I-4 利用学生の内訳

*利用学生数(延べ)⁶ 合計 554 件(前年同期 441 件)

*初来室数 162 名(前年同期 153 名)。そのうち留学生の初来室は 19 名(前年同期 22 名)

*利用学生の所属と学年を示した表(表 4、表 5、表 6、表 7)以下に示す。なお、表の()内は前年度同期の人数を示している。

表 4 利用した学部生の所属と学年

学部全体(所属/学年)	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年~	計
法学部	38(21)	6(14)	13(8)	28(4)	18(19)	103(66)
経済学部	11(17)	6(3)	24(18)	3(7)	0(0)	44(45)
商学部	5(14)	1(3)	1(4)	28(22)	2(0)	37(43)
理工学部	0(0)	0(0)	0(0)	1(0)	0(0)	1(0)
文学部	54(39)	25(20)	22(17)	61(35)	0(0)	162(111)
総合政策学部	6(23)	12(2)	0(7)	10(0)	0(5)	28(37)
国際経営学部	18(4)	10(6)	0(1)	2(11)	19(8)	49(30)
国際情報学部	10(2)	0(0)	1(0)	0(0)	0(0)	11(2)
法学部通信教育課程						2(0)
聴講生						0(0)

⁶ 延べ利用数。実施セッション数に基づくため、同一学生の同一日利用および連続セッションを含む。

科目等履修生	0(0)					
計	142(120)	60(48)	61(55)	133(79)	39(32)	437(334)

表 5 利用した学部留学生の所属と学年()内は前年同期

学部留学生(所属/学年)	1年	2年	3年	4年	5年~	計
法学部	0(1)	0(0)	0(0)	0(0)	0(1)	0(2)
経済学部	0(0)	0(0)	0(18)	2(0)	0(0)	2(18)
商学部	0(3)	0(0)	0(0)	18(11)	0(0)	18(14)
理工学部	0(0)	0(0)	0(0)	1(0)	0(0)	1(0)
文学部	1(0)	0(1)	0(0)	2(0)	0(0)	3(1)
総合政策学部	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
国際経営学部	0(1)	0(0)	0(0)	0(4)	18(8)	18(13)
国際情報学部	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
法学部通信教育課程	0(0)					
聴講生	0(0)					
科目等履修生	0(0)					
計	1(5)	0(1)	0(18)	23(15)	18(9)	42(48)

表 6 利用した大学院生の所属と課程

大学院全体(所属/課程)	前期	後期	計
法学研究科	27(11)	11(10)	38(21)
経済学研究科	3(7)	0(0)	3(7)
商学研究科	24(8)	0(0)	24(8)
理工学研究科	0(0)	0(0)	0(0)
文学研究科	10(32)	30(21)	40(53)
総合政策/公共政策研究科	7(18)	0(0)	7(18)
ビジネススクール	0(0)	5(0)	5(0)
計	71(76)	46(31)	117(107)

表 7 利用した大学院留学生の所属と課程

大学院留学生(所属/課程)	前期	後期	計
法学研究科	27(11)	11(10)	38(21)
経済学研究科	3(6)	0(0)	3(6)
商学研究科	23(8)	0(0)	23(8)
理工学研究科	0(0)	0(0)	0(0)
文学研究科	10(24)	29(21)	39(45)
総合政策/公共政策研究科	7(18)	0(0)	7(18)
ビジネススクール	0(0)	0(0)	0(0)
計	70(67)	40(31)	110(98)

I-5 相談文章の種類（）内は留学生の人数

授業のレポート	252 件(15 件)
授業の発表資料	35 件(10 件)
研究計画書	95 件(52 件)
卒業論文	42 件(2 件)
修士論文	18 件(18 件)
博士論文	12 件(10 件)
投稿論文・研究ノート	19 件(6 件)
学外での発表資料	6 件(2 件)
その他	75 件(27 件)

【所見】

国際情報学部の学生の利用は 2023 年度後期には 1 件もなかったが、今期は 11 名の利用があった。実人数は 4 名であり、そのうち学部 1 年生が 3 名であった。

また、法学部の学生の利用が増加したことから、多摩以外のキャンパスに対する広報も効果が出ていると考えられる。

I-6 利用学生のアンケート

各セッション終了後、利用学生に任意でアンケートに協力してもらった。対面では紙面にて、オンラインは Google フォームにて実施した。今期は対面では 218 通、オンラインでは 36 通を回収した。質問項目と結果を以下に示していく。

ライティング・ラボを知ったきっかけ

回答の重複を避けるため、ライティング・ラボを知ったきっかけについては、予約フォームにて初回利用の学生に限定してたずねた。回答件数と割合を表 8 にまとめた。

表 8 ライティング・ラボを知ったきっかけ(複数回答可)

きっかけ	全体の件数(%)	うち留学生の件数(%)
ラボの HP/SNS	16 (7.7)	2 (7.4)
授業で知った/先生にすすめられた	108 (52.2)	15 (55.6)
友人/先輩/後輩にすすめられた	23 (11.1)	4 (14.8)
レポートの書き方資料で知った	18 (8.7)	1 (3.7)
学内のポスターやパンフレットで知った	26 (12.6)	3 (11.1)

ラボのイベント(講座など)で知った	5 (2.4)	1 (3.7)
入学時のガイダンス/資料で知った	11 (5.3)	1 (3.7)
その他	0 (0.0)	0 (0.0)
合計	207 (100.0)	27 (100.0)

【所見】

きっかけはこれまでと同様、教員の推奨によるものが多かった。今後も教員への宣伝を継続し、学生への周知につなげたい。次いで友人などの知り合いにすすめられたという回答が多く、ラボという初めて行く場所へのハードルが知り合いにすすめられたことで下がったと考えられる。さらに、学内のポスターやパンフレット、ラボのホームページや SNS で知ったという学生も次に多く、ラボの広報活動が効果を出していることがわかる。しかし、ラボのイベント等で知った割合はやや低いため、ラボの活動がさらに周知されるよう、広報活動に力を入れていきたい。

セッションは有益だったか⁷

ここからはセッション後のアンケートの回答をまとめていく。比較として、表には前年(2023年)度前期の回答も併記した。まず、セッションが有益だったかどうかに対する回答人数と割合を、セッション形式別に表9にまとめた。

表9 セッションは有益だったか

回答項目	今年度の回答人数(%)		前年度の回答人数(%)	
	対面	オンライン	対面	オンライン
有益ではなかった	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.0)
あまり有益ではなかった	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.0)
どちらともいえない	3 (1.4)	0 (0.0)	2 (1.1)	1 (4.0)
有益だった	26 (11.9)	4 (11.1)	33 (17.6)	2 (8.0)
とても有益だった	189 (86.7)	32 (88.9)	153 (81.4)	20 (80.0)
合計	218 (100.0)	36 (100.0)	188 (100.0)	25 (100.0)

⁷ 「有益ではなかった」「あまり有益ではなかった」「どちらともいえない」「有益だった」「とても有益だった」の5段階評価。

セッションが有益だと感じた理由

セッションが有益だと感じた理由を、自由記述（任意）でたずねた。前期は初めてレポートを作成するためどのように書けばいいのかわからないといった相談が多かった。理由でも、どのようにレポートを作成すればいいのか、チューターとのやり取りを通して明確化できたことがよく述べられていた。

【所見】

セッションに関して、前年度ではおよそ80%の学生が「とても有益であった」と回答していた。今年度では前年度よりも利用者が増したが、対面・オンラインセッションともに85%を超える学生が「とても有益であった」と回答していた。前年度ではオンラインにて「有益ではなかった」「あまり有益でなかった」という回答が各1件ずつあったが、今年度は0件であったことから、今年度は対面・オンラインともに多くの学生にとって満足のいくセッションが行えていたと言えよう。

セッションが有益であった理由について、「なやんでいた内容を全て解決できたから。レポート書くのが楽しみになった。」という回答に着目したい。多くの学生が、ラボで相談したことで自分の文章をどう書けばいいのかわかっていた。このコメントはさらに、自分からレポートを書こうという意思が見られる。これは、学生を主体的な書き手とするラボの理念に合致したセッションを行うことができたと言えよう。今後も学生の不安を解消し、自分からすすんでレポートや論文を書いていけるよう、チューター研修を重ねていきたい。

セッションの時間⁸

次に、セッションの時間についてどう感じたかについての回答人数と割合を表10に示した。

表10 セッションの時間についてどう感じたか

回答項目	今年度の回答人数(%)		前年度の回答人数(%)	
	対面	オンライン	対面	オンライン
短かった	13 (6.0)	3 (8.3)	6 (3.2)	3 (12.0)
少し短かった	15 (6.9)	9 (25.0)	26 (13.8)	4 (16.0)
妥当だった、ちょうどよかった	190 (87.2)	24 (66.7)	155 (82.4)	16 (64.0)
少し長かった	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)	1 (4.0)
長かった	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.0)
合計	218 (100.0)	36 (100.0)	188 (100.0)	25 (100.0)

【所見】

対面・オンラインセッションともに大半の学生はセッション時間を妥当であると回答していた。一方で、対面で「短

⁸ 「短かった」「少し短かった」「妥当だった、ちょうどよかった」「少し長かった」「長かった」の5段階評価。

かった」、オンラインで「少し短かった」と回答している学生の割合は前年度に比べて増えている。先に示したようにセッションがとても有益であったと回答していた学生は前年度より多かった。有益だと感じているからこそ、もう少し長くチューターとやり取りをして文章の完成度を上げていきたいと感じる学生がいたのではないか。ラボの継続的な利用を勧めるほか、フィードバックシートを活用し、今回のセッションでどれくらい進めることができたのか明確にし、学生がセッションで充足感を得られるよう工夫することが求められる。

対面セッションの良かった点と困った点

セッションの良かった点/困った点について、セッション形式別にたずね、表にまとめた。まず、表11に対面セッションの良かった点、表12に対面セッションで困った点の回答件数と割合を示した。

表11 対面セッションの良かった点(複数回答可)

回答項目	今年度の回答件数(%)	前年度の回答件数(%)
場所がわかりやすかった	84 (17.8)	45 (11.7)
セッションブースなどの環境が整っていた	103 (21.8)	66 (17.2)
文章の共有が楽だった	111 (23.5)	104 (27.2)
チューターとの意思疎通がしやすかった	168 (35.5)	158 (41.3)
その他	3 (0.6)	8 (2.1)
回答なし	4 (0.8)	2 (0.5)
計	473 (100.0)	383 (100.0)

表12 対面セッションで困った点(複数回答可)

回答項目	今年度の回答件数(%)	前年度の回答件数(%)
場所がわかりにくかった	21 (9.6)	12 (6.3)
セッションブースなどの環境整備に問題がある	1 (0.5)	6 (3.1)
文章共有の準備に手間取った	12 (5.5)	9 (4.7)
チューターとの意思疎通が難しかった	11 (5.0)	3 (1.6)

その他	3 (1.4)	9 (4.7)
回答なし	170 (78.0)	152 (79.6)
計	218 (100.0)	191 (100.0)

オンラインセッションの良かった点と困った点

次にオンラインセッションについて、表 13 にオンラインセッションの良かった点、表 14 にオンラインセッションで困った点の回答件数と割合を示した。

表 13 オンラインセッションの良かった点(複数回答可)

回答項目	今年度の回答件数(%)	前年度の回答件数(%)
移動の手間が省けた	31 (53.4)	20 (47.6)
文章やデータの事前共有が楽だった	15 (25.9)	14 (33.3)
対面とは異なり緊張せずに済んだ	10 (17.2)	7 (16.7)
特になし	1 (1.7)	1 (2.4)
その他	1 (1.7)	0 (0.0)
計	58 (100.0)	42 (100.0)

表 14 オンラインセッションで困った点(複数回答可)

回答項目	今年度の回答件数(%)	前年度の回答件数(%)
場所の確保が難しかった	0 (0.0)	1 (4.0)
文章やデータの事前共有が大変だった	0 (0.0)	0 (0.0)
どのように操作すればよいのかわからず不安だった	4 (10.0)	1 (4.0)
チューターの声が聞き取りづらいつきがあった	4 (10.0)	0 (0.0)

特になし	32 (80.0)	22 (88.8)
その他	0 (0.0)	1 (4.0)
合計	40 (100.0)	25 (100.0)

【所見】

対面セッションについて、良かった点のその他の回答で「相手の表情やしぐさが見える」「対面のコミュニケーションのほうが顔が見えて安心する。」といったチューターとの会話のしやすさが挙げられていた。一方で、困った点のその他の回答では「言語化に詰まった時。」「一番初めの伝え方に困ってしまった」「その場で考えを構成させて伝えるのが難しかった。」といった自分の考えの伝えにくさが挙げられていた。「チューターとの意思疎通が難しかった」と回答している割合も前年度よりやや増えており、チューターと実際に顔を合わせているからこそ、緊張したり、言葉に詰まったときに気まずさを感じやすかったりしたのであろう。前期は初めて利用する学生も多いため、学生が話しやすい雰囲気づくりをしていくことが求められる。また、良かった点として「場所がわかりやすかった」と回答している学生の割合が前年度より増えていた。前年度の学生からの意見でポスターにマップがあるとわかりやすいというものがあった。今年度の春のポスターでは、その意見を採用していたため、その効果が出たのかもしれない。ホームページにラボへの経路が掲載されていることも、今後さらに周知させていきたい。

オンラインセッションについて、良かった点のその他の回答として「都心キャンパスでも同じようにサービスを利用できるのはありがたかったです。」とあった。対面だけでなくオンラインでもセッションを受け付けていることで、どの学部であっても、学生がどこにいても気軽にラボを利用できる結果につながったと言える。ただ、学生がどこからでも利用できるからこそ、困った点として「どのように操作すればよいのかわからず不安だった」「チューターの声が聞き取りづらいときがあった」といった回答の割合が前年度よりやや増えていた。学生が快適にオンラインセッションを受けられるよう、ラボの環境を整えていく必要がある。

ラボに対する要望として、セッション時間やセッション日の増加が挙げられていた。ラボのホームページにて、40分のセッション時間でどのようなことができるのか具体例を示すことや、フィードバックシートを活用し今回のセッションでどれだけ進んだか明示することで、学生の充足感を上げていきたい。ブースの増加の要望について、現在も枠が空いていればウォークインでの利用を受け付けているが、セッションでどの授業のどんな課題なのかまず確認することに時間を割かれてしまう。予約を取ることで、スムーズにセッションを進めることができるというメリットを周知させていきたい。これに関連して、チューターに課題の要件や引き継ぎがうまくできていないという意見が出ていた。予約完了メールにて、自身の書いている文章だけでなく、課題の要件があれば送るように指示していたが、学生側が文章や要件の送り方がわからなかったり、メールの文章を読んでいなかったりしたため、セッション中に確認することがしばしばあった。現在は予約フォームに課題の要件や文章を送る旨を付け加え、メールの文言も修正したため、今後この問題は改善されると考えられる。引き継ぎについても、現在引き継ぎ書のフォーマットの改良を行っている。後期は卒業論文や修士論文などの長い文章について、継続的に利用する学生が増える。次に担当するチューターが円滑にセッションを行えるようにしていきたい。

その他、スチューデントハブに関する要望もあった。今期はスチューデントハブのパソコンからの音声がかきこえないなどの不備がたびたび起きていた。多摩キャンパス以外の学生も気軽にラボを利用できるよう、環境の整備を進めてもらいたい。

最後に、セッションで困った点で、対面・オンラインセッションともに8割程度の学生が回答なし、または特になしを選択していた。ラボへのアドバイスでも感謝の表明や現状への満足を述べる回答が多数を占めており、多くの学生がセッションで満足感を得られていることがわかる。上述の要望を改善していき、さらに多くの学生がラボの理念に沿った学びを得られるようにしていきたい。

I-7 春期開室

今年度初の試みとして、学生のニーズ調査も兼ね、夏季、冬季休業期間同様、春季休業期間にも開室を行った。セッションはSV及びASVが行った。セッション設置数が少ないため、ここでは稼働率ではなく、稼働数や利用者の内訳を報告する。

- ・開室日程 1/29、2/13、20、27、3/5、19、25 (計 7 日間)
- ・利用学生数(延べ) 合計 22 名(留学生 2 名)
- ・初来室数 6 名(留学生 1 名)
- ・セッション形式 ()内は留学生の人数
 対面 7 名(2 名)
 オンライン 15 名(0 名)
- ・利用学生の所属と学年を示した表(表 15、表 16、表 17、表 18)を以下に示す。

表 15 利用した学部生の所属と課程

学部全体(所属/学年)	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年～	計
法学部	0	2	2	0	0	4
経済学部	0	0	0	0	0	0
商学部	0	0	0	2	0	2
理工学部	0	0	0	0	0	0
文学部	0	0	8	3	0	11
総合政策学部	0	1	0	0	0	1
国際経営学部	0	0	0	0	0	0
国際情報学部	0	0	0	2	0	2
法学部通信教育課程						0
聴講生						0
科目等履修生						0
計	0	3	10	7	0	20

表 16 利用した学部留学生の所属と学年

学部留学生(所属/学年)	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年～	計
法学部	0	0	0	0	0	0
経済学部	0	0	0	0	0	0
商学部	0	0	0	0	0	0
理工学部	0	0	0	0	0	0
文学部	0	0	0	0	0	0
総合政策学部	0	0	0	0	0	0
国際経営学部	0	0	0	0	0	0
国際情報学部	0	0	0	0	0	0
法学部通信教育課程						0
聴講生						0

科目等履修生	0					
計	0	0	0	0	0	0

表 17 利用した大学院生の所属と課程

大学院全体(所属/課程)	前期	後期	計
法学研究科	0	0	0
経済学研究科	0	0	0
商学研究科	0	0	0
理工学研究科	0	0	0
文学研究科	0	0	0
総合政策／公共政策研究科	2	0	2
ビジネススクール	0	0	0
計	2	0	2

表 18 利用した大学院留学生の所属と課程

大学院留学生(所属/課程)	前期	後期	計
法学研究科	0	0	0
経済学研究科	0	0	0
商学研究科	0	0	0
理工学研究科	0	0	0
文学研究科	0	0	0
総合政策／公共政策研究科	2	0	2
ビジネススクール	0	0	0
計	2	0	2

・相談文章の種類 ()内は留学生の人数

授業のレポート	1 件(0 件)
研究計画書	10 件(1 件)
卒業論文	4 件(0 件)
修士論文	1 件(1 件)
投稿論文・研究ノート	3 件(3 件)
その他	6 件(0 件)

・ライティング・ラボを知ったきっかけ ()内は留学生の人数

ラボの HP/SNS	1 件(0 件)
授業で知った／先生にすすめられた	2 件(1 件)
友人／先輩／後輩にすすめられた	1 件(0 件)
レポートの書き方資料で知った	1 件(0 件)
学内のポスターやパンフレットで知った	1 件(0 件)

【所見】

春季休業期間の開室では、相談文章の多くが研究計画書と大学院進学に必要な志望理由書であった。また、卒業論文や修士論文に早くから取り組む学生もいた。春季休業期間にもニーズがあることが明らかになったため、今後も継続して、長期休業中の開室を行っていく。

II セッション以外の活動

II-1 広報活動

II-1-1 出張ガイダンス及び見学ツアーの実施

今期は、出張ガイダンス7件、見学ツアー7件、合計14件実施した。出張ガイダンスや見学ツアー実施後にラボを利用した学生も一定数見られ、ラボ利用の壁低減に繋がっていると考えられる。

【所見】

ラボを利用するまで「ラボの存在を知らなかった」という学生が多いため、出張ガイダンスや見学ツアーを通してラボの周知に繋げていきたい。ラボにおける実践内容や利用法に関する教員への周知が今後も課題である。

II-1-2 多摩キャンパス「ワンポイント講座」

多摩キャンパスにおける広報活動の一環として、「ワンポイント講座」を実施した。今年度は、対面形式で2日間実施し、学生が昼食を食べながら気軽に参加できるように昼休みの企画とした。ポスターを見て気づき、お弁当を買ってから参加する学生もいるなど、参加のしやすさには繋がったと思われる。参加者数は昨年度より増加したものの、広報の一環として実施していることを鑑みると、物足りない人数であった。来年度も引き続き広報への取り組みが求められる。

参加した学生は学部1・2年生が中心であった。今年度のテーマ「感想文からの脱却」は、自身で気づいている課題でもあるためか、熱心に取り組み、アンケートからも満足のいく内容であったことがわかる。今後も、ラボのセッションで取り扱う観点を中心に実施していきたい。

日時： 6月25日（火）12:40-13:10

6月26日（水）12:40-13:10

参加者数：1回目 37名 2回目 23名

アンケートは、各回終了時に Google フォームにて実施した。任意でアンケートに協力してもらい、参加者全員60名より回収できた。

*アンケート⁹結果：（合計60件）

有益であったかどうか

強くそう思う	41件
ややそう思う	18件
あまりそう思わない	1件

⁹ Google フォームを用いて、講座の最後に実施した。

【所見】

アンケートでは、本講座で役立ったこととしては、自分のレポートへの振り返りに繋がった、具体的なレポートの書き方が分かった、意識づけに繋がったというようなコメントが寄せられた。また、その他講座全体への感想としては、短い時間ながらもレクチャーと実践にわけて実施していた点について好意的なコメントが寄せられた。さらに、中にはワンポイント講座に参加したため、ラボが利用しやすくなったというコメントもあった。広報に課題は残るものの、ラボ利用促進の一環として今後もワンポイント講座は継続していきたい。

II-2 研修

II-2-1 学期中チューター全体研修

昼休み時間を利用し、合計5回の全体研修をオンラインにて実施した。曜日毎に各1回の研修を担当し、シニアチューターを中心に、テーマ決め（表19）、事前課題や当日進行の検討、資料作成等を行った。

表19 2024年度前期チューター全体研修の概要

月日	担当	テーマ
4/18	月曜日チューター	新人お悩み相談室：学生とのコミュニケーションの取り方 —チューターからの論理展開に関する質問に学生が困った場合—
5/9	木曜日チューター	新人お悩み相談室：学生の状況に合わせたセッションの目標の立て方 —SMART ¹⁰ より考える—
5/23	水曜日チューター	学生とのコミュニケーションの取り方再考 —「面接の基本的な技法」 ¹¹ を参考に—
6/6	金曜日チューター	効果的なセッションの振り返り方
6/20	ワークショップ担当者	大学ワークショップリハーサル —感想文からの脱却—

【所見】

今学期は、チュータリングで求められるスキルを中心に、セッションの省察を通して学ぶ研修が多かった。経験の浅いチューターは、学生の状況に臨機応変に合わせながら、セッションを進めていくことに難しさを感じていた。そこで今期は、セッションで上手くいかなかった事例を取り上げ、その時の学生の状況をどのように理解し、セッションを進めていくかというテーマを取り上げる曜日が多かった。

また、セッションの振り返りを取り上げた曜日があったことから、特にシニアチューターを中心にチューター同士で振り返りをするという姿勢が時折見られた。後期は時間内研修でもチューター同士による省察を取り上げ、省察の重要性への認識を高めるとともに、セッションスキルの向上に努めたい。

II-2-2 長期休業期間中の対面集合研修

上記以外では、春季休業期間中の3月28日（木）に、多摩キャンパス内で対面による集合研修を実施した。集合研修の目的は、対面で会う機会が不足しているチューター間のコミュニケーション促進と学び合いである。

¹⁰ 岩崎千晶(2020)「ITTPC による国際チューター認証資格に基づくライティングチューターの育成方法」『関西大学高等教育研究』11, pp. 43-54.

¹¹ 茨城県教育研修センター「面接の基本的な技法」

(<https://www.center.ibk.ed.jp/wysiwyg/file/download/1/131> 2024年8月21日閲覧)

日時：3月28日（木） 午前 新人チューター初回研修（対象者2名）
午後 全チューター集合研修
概要：午前 ラボの歴史・理念、勤怠関係、セッション概要など
午後 文章診断練習及び模擬セッション

午後の集合研修では、2種類の文章の文章診断を行い、文章の問題点やセッションで取り上げる観点の優先度などについてディスカッションを行い、文書診断時の考え方を共有した。その後、ペアになり模擬セッションを実施した。今回取り上げた文章は、2つとも「問いが漠然としている」「主張が検討できていない／わかりづらい」「論拠が丁寧に検討できていない」というように文章の大枠に関する部分に複数の問題を抱えた文章であった。模擬セッションを通して、どのように学生と一緒に目標を設定するか、学生の思考にあわせてセッションをどのように進めるかなどを学んだ。また、他チューターがセッションで使うスキルを学ぶ機会として模擬セッションは貴重であるため、今後も対面での集合研修を有効利用していきたい。

II-2-3 新人チューター研修

今期就任の新人チューター2名に対し、配属曜日のチューターを中心に、文章診断練習・セッション見学・セッション計画・模擬セッション実施など約2か月にわたり実施した。

【所見】

新人チューターが新人研修から全体研修を通して知識を身に付け、同時にセッション経験も積み重ねることで成長し、シニアチューターとなった時点では他チューターへの指導も行うことができる能力を身に付けられるように、チューターとしての成長にあわせて全てのチューターの学びへと繋がるよう研修を実施していきたい。

II-3 中大付属杉並高校チューター派遣業務

報告書を別添1に記載。

II-4 中大附属高校ワークショップ

報告書を別添2に記載。

III 来期に向けた所見

III-1 チューター公募

後期のチューター公募を例年通り実施する。スケジュールは下記のとおりである。

8月31日（土）	応募書類受付締め切り
9月10日（火）	面接（尹先生、中野 SV、松井 ASV、林 ASV）
10月1日（月）	着任

Ⅲ-2 市ヶ谷田町キャンパスに向けた広報

これまでは、積極的に市ヶ谷田町キャンパスに向けた広報を実施していない。しかしながら、今期国際情報学部より 11 件の利用があったことから、潜在的なニーズはあると考えられる。来学期以降は、茗荷谷キャンパスに加え市ヶ谷田町キャンパスへの広報も検討していきたい。

Ⅲ-3 レポートの書き方資料改定

2021 年 9 月に初版発行した「レポートの書き方資料」であるが、今年度中に改訂作業を終了する予定である。従来は 5 項目であったが、今回の改訂で 2 項目追加、合計 7 項目とし、さらに使いやすい資料となるよう作業中である。

Ⅲ-4 長期休業中の開室におけるチューター勤務

2024 年度夏季休業期間における開室より、希望するチューターは勤務可能とする。昨年度より、夏季・冬季・春季休業期間に開室し、需要に関するニーズを調査した。その結果、夏季は卒論、冬季は修論に関する需要が特に多かったため、この 2 期については S V / A S V の勤務に加え、チューターも勤務することとし、セッション設置数を増加する。

以上

2024年8月29日

スーパーバイザー 中野玲子

アシスタント・スーパーバイザー 松井雄志

アソシエイト・スーパーバイザー 林雅子

【別添1】

中央大学杉並高校セッション(前期) 実施報告書

1. セッション設置数と実績

- ・1セッション40分、開室時間①15:45-16:25、②16:30-17:10、③17:15-17:55
- ・前期は27回セッションを設置(前年比増減なし)
- ・稼働率は前期92%であった。

<2024年の稼働率>

月別	5月	6月	計
セッション設置数	6	21	27
セッション実績	6	19	25
稼働率	100%	90.5%	92.5%

ただし、上記表は予約を元に集計している。当日キャンセルが今期は2件あったが、これは実績としてカウントしている。

2. ワークショップ

テーマ：前年度に引き続き「テーマの立て方」

参加者：24名

- ・今年度は前年度から若干の変更を加え、「フードロス」、「ボランティア活動」「若者の投票率」という3つの異なるテーマに分け、生徒たちがブレインストーミングを行い、自身で問いを作るというワークを行った。
- ・前年度との変更点として、今年度は生徒たちにテーマとしての単語のみを与え、問いは自分たちで組んでもらうという形をとっている点を挙げるができる。
- ・今年度のワークではどの班も抽象的なテーマを具体的に絞り込むことには成功しており、頭の中を「見える化」し、テーマを「深める」というWSの趣旨としては十分に達成したと評価できる。
- ・一方で、問いの形にする際、「～をどうあるべきか」や「～を改善するためにはどうすべきか」といったやや抽象的・規範的な問いに収斂することが多かった。そのため、どのように研究するのかといった研究手法について、WSや、通常セッション内でも言及・示唆を行えるとより良いという指摘もあった。
- ・その時の学生の悩みに沿ったワークショップテーマであったためか、アンケート結果も好評だった。「本日の講座は有益だったと思いますか。」という問いに対して「強くそう思う」「ややそう思う」と答えた学生は全体の99%に上った。

3. セッションについて

- ・本年度も昨年度と同様中杉の生徒が授業で使う Google Classroom から Google Meet に接続する形式のオンラインセッションと、実際にチューターが学校を訪れる対面セッションを併用した。
- ・今年度前期は木曜日と金曜日に開室し、一曜日につき一人のチューターが担当した。
- ・昨年度と同様、オンラインセッションは、中杉ミーティングルームで教員の PC を使って接続するか、自宅から通信を行う形で実施の予定であったが、結果としてほとんどの学生が学校から接続した。

4. 所感

- ・今年度の生徒について

今年度の生徒の特徴としてガジェット類への慣れをあげることができる。今年度の3年生は入学当初からタブレット端末を授業で使用してきた。そのためガジェットを用いた授業に特段のアレルギーがない。今季セッション前の準備作業について、学生の負担がやや増えたにも関わらず、ほとんど混乱が起きなかったのはこの要因が大きいと考えられる。

一方で、問いに関して言えば、今年度の学生は抽象度が高く、実現難易度が高いと考えられる問いが散見された。夏休みまでに構想（探究マップ）を完成させなくてはならない時期に差し掛かると、昨年度と同様、大きな「自分のやりたいこと」をそのまま問いにしてセッションに望む学生も散見されるようになった。

- ・今年度の変更点

双方向編集について

今年度は前年度から提起されていた学生とチューターの双方向編集を行うこととなった。高校からの許可や権限移行を経た上で、学生がドキュメントやスライドの編集権限を一時的に変更する事で可能となっている。これにより、学生側もチューターからのアドバイス等をメモする事が可能となり、より効果的なセッションを行う事ができた。

- ・今期の反省点

マニュアル作成や初回セッション前の情報共有について

中大内部の問題として、google meet 等セッションに必要となるアプリケーションや機材などの運用方法、セッションの進行について特に新しく着任したチューターが事前に目を通しておくべきマニュアルの作成が必要であるという指摘があった。

また、探求マップの使い方等、セッション進行に必要なノウハウの引継ぎが不十分な箇所が散見された。

オンラインセッション中の双方向編集の難易度について

オンラインセッション中は生徒が学校の PC を用いることが圧倒的に多いため、双方向編集が難しい場合が存在する。どのような機材を用いて学生がドキュメントに入力を行っているかチューターから判別できないため、問題が生じているのかの把握も難しい。

以上

【別添2】

中央大学附属高校ワークショップ 実施報告書

2. ワークショップ

テーマ：「90分でわかるレポート作成のコツ」

実施日時：4/26(金)17:00～18:30

場所：中央大学多摩キャンパス

参加者：13名（高校3年生、選択科目「Global Project」履修者）

・「Global Project」について

国際交流や国際体験、語学能力の運用を通じて柔軟に自身の考え方や価値観を変化適応させていくことをねらいとしている授業。レポート作成あり。

・要望

アカデミックライティングの基本やポイントについての説明。
とくにパラグラフ・ライティングの考え方や実践方法について。

・ワークショップの内容

① 「問いの立て方」について。

レクチャー後、「選挙の問題」について深い問いをみんなで考えた。

② 「パラグラフ・ライティング」について

中心文と支持文に気をつけて文章を修正した。

・アンケート結果

「本日の講座は、有益だったと思いますか。」という質問に対して「強くそう思う」が9名、「ややそう思う」が4名だった。「強くそう思う」と思った理由として「卒論に活かそうだから」と答えた生徒が4名いた。

また、「論文・レポートの執筆に関して、現時点で悩んでいることがあれば教えてください（任意）」という質問に対して卒業論文のテーマや問いが決まらないという回答が9件あった。

【所見】

ワークショップ後に中央大学附属高等学校のカリキュラムである「卒業論文」に関する相談をする学生が6名いた。

中央大学杉並高等学校同様、ニーズが見られた。

以 上